

研究ノート

多様化するローカルヒーローの認識と実態

石 井 龍 太

要 旨

「ローカルヒーロー」と呼ばれる活動が日本全国で行われている。本稿ではこれらについて、特に活動内容と運営母体の変化について検討する。

ローカルヒーローの活動は、地域振興を目的にボランティアで行われると認識されている。しかし実態は地域色を薄めた「ローカルヒーローの地域離れ」が進行しており、また企業や公共機関が活動母体となる例も増えていることが確認された。ローカルヒーローは変化しており、またテレビ番組の模倣ではない、オリジナリティの模索が開始されていることがうかがえる。

キーワード：ローカルヒーロー、キャラクターコンテンツ、地域、ボランティア、営利性

1. はじめに

「ローカルヒーロー」「ご当地ヒーロー」などと呼ばれるキャラクターコンテンツが存在し、全国的なブームになっているとも言われる（図1）。いまやローカルヒーローの存在しない都道府県はなく、過去の活動例も含めると600例近いという報告もあり（岩崎2008: 67）、8年間で倍化したという概算も出されている（ローカルヒーロー研究会2013: 130）。実際のところどれほどの知名度を獲得し社会的影響力を持っているかは研究例もなく不詳だが、活動が盛んになっているのは紛れもない事実といえよう。

ローカルヒーローはステージショーを中心に活動するケースが多い。ピンチを切り抜け、悪と戦うヒーローの姿を見せることを通じ、正義、道徳、平和、友情といったメッセージを届けていると考えれば、単なる娯楽の枠を超えた教育的社会活動のひとつと見なすことも可能であろう。活動目的や活動母体は多様で、個人的趣味的な自己実現としてなされる例もあれば、デザインや設定、ストーリーに地域振興の要素を盛り込み、PR活動を実施している例もある。また子供の



図1 ローカルヒーローの実例(埼玉県戸田市「埼京戦隊ドテレンジャー」
2014年10月26日撮影)

興味を喚起することを期待して、警察や教育委員会が防犯や社会啓発活動などに用いる例もある。さらに踏み込んだ社会貢献を積極的に行う例もあり、東日本大震災発生後には、無償のステージショー、募金活動、さらに被災者を実際に手助けするなど、福祉活動を積極的に行うローカルヒーローたちの姿も見られた。中にはボランティアに献身したため「経済的な困窮度言えば、被災者よりもずっと困窮している」状況になったにも関わらず活動を続けた例(うるの2013: 52⁽¹⁾)や、被災規模を減少させるための啓発活動を行ってこなかったことを悔やんでファンに向けて謝罪のメッセージを出した例(NPO いわて・郷プロジェクト2011)も存在した。理解も興味も無い人からすれば、大人が実生活を投げ打ってヒーロー活動に専心する姿はただただ奇異に映るだけかもしれない。また全てのローカルヒーローに演繹できる訳でもないが、しかしフィクションの枠を超え、ヒーローとして社会貢献したいという意欲、使命感を持った担い手達の存在がこうした活動から見て取れる。正義、平和といったメッセージを掲げるローカルヒーローの活動は、しばしば混同される「ゆるキャラ」をはじめ他の地域キャラクターと比べて積極的社会貢献の要素をふんだんに含んでおり、それが担い手たちを自己犠牲的なまでの活動に駆り立てる原動力になっているともいえるだろう。

ローカルヒーローが活動を活発化させるにつれて、その研究もなされるようになった。ゆるキャラに比べるとまだまだ研究蓄積は少ないものの、アカデミズムの研究対象として注目されるようになったのは新しい動きといえよう。先行研究の詳細は後述するが、サブカルチャーの側面から

分析した事例だけでなく、社会、福祉、道德、団体行動といった要素を含む活動であることから様々な課題設定が可能である。また客観的な研究ばかりでなく、市街地の活性化をテーマとしてローカルヒーローを大学のゼミ活動で製作するというアカデミズムの場での実践例も登場している（南山大学総合政策学部高橋研究室 2005、ブルー・オレンジ・スタジアム 2006: 54）。

本稿では現在日本各地で活発に展開しているローカルヒーローを研究対象として設定する。まず研究の第一歩として、先行研究を検証する。そしてローカルヒーローの認識についてデータを集めて検証する。その上で論点を絞り、ローカルヒーローの現状について検討する。検証に当たっては年代別に性質をまとめ、現在までの変化に留意する。

2. 先行研究

分析に当たり、まず先行研究を検討する。ローカルヒーローに関する先行研究は決して多くない。地域振興やサブカルチャーを対象とする研究が低調な訳ではないことから、むしろ研究対象として意識されていないことに理由があると推察される。中にはゆるキャラなど関連する異なるキャラクター分野と混同したものや同列に論じたものも見られる。

2-1. 社会福祉としてのローカルヒーロー

岩崎雅美氏は、社会福祉の現状を巡る問題を論ずる観点から、新たな実践例としてローカルヒーローを取り上げている（岩崎 2008）。岩崎氏によれば、ローカルヒーローは市場原理に与する「メジャーヒーロー」すなわちいわゆる特撮のテレビ番組のヒーローと対置されるものであり、福祉活動として捉えることが可能だとする。ローカルヒーローは地域に根差したところに大きな特徴があり、地域住民による自発的な組織体で、子供達を対象にした教育・社会ルールの理解促進を図る啓発活動であるとまとめる。そしてこの意味では社会福祉協議会の要項に規定される福祉活動に合致し、実際に連携した例として東京都久留米市の事例を挙げている（岩崎 2008: 67）。また泊江市で行われているローカルヒーローによる清掃活動を具体的な福祉活動として取り上げている。

この論考で特に注目されるのが、ローカルヒーローの活動動機に関する分析である。活動の担い手はテレビの特撮ヒーローを見て育った世代が親となり、自らヒーローを企画、実演しているケースが多いとし、地域を盛り上げるということに加えて幼い頃の夢を実現し支えるという思いが活動の大きな原動力となっていることを指摘する。すなわち担い手自身が活動そのものを楽しみ、実践を通じて自己実現しているという共通点があるというのである。ローカルヒーローがもてはやされる背景には、地域や子どもたちの健全育成に協力できるという表の要因に、自己実現

をはかるという裏の要因がカモフラージュされている構造があると指摘する。活動の担い手や支え手自身が輝ける場や機会を設けることで、彼らの潜在的な欲求を掬い上げ変容させた実践活動につなげたものと論じており、自分の欲望や夢の実現からスタートして公益に寄与するというゴールに到達するという、これまでの福祉活動からすると異端的な存在となるアプローチだとする。だがこうした構造をとることで、地域実践に参画することが最も難しいとされてきた働き盛りの男性層がむしろ中心的な活躍を果たす、異なる個性の構成員をローカルヒーローという一つの活動を通じてつなぎあわせ、新たな価値や意味を創出するユニークな実践とまとめている。

岩崎氏の分析は示唆に富み、中でもローカルヒーローの担い手たちの活動動機として自己実現を指摘した点は注目される。また動機はともあれ、ローカルヒーローが正義の味方を基本とする性質を持つことを考えれば、その活動が公益に着地するのは自然なこととも考えられ、むしろ「ヒーローになる」という自己実現そのものが公益性を内包している、少なくとも担い手たちはその気になっているとも考えられよう。東日本大震災の折にローカルヒーローの担い手達がボランティア活動に熱心に取り組んだ事例はその典型といえよう。

ただし岩崎氏が活動動機の具体例として取り上げた中には経済活動としてローカルヒーローを運営する企業の事例が含まれており、多様なローカルヒーローの運営母体によってその目的にも違いや温度差がある点は指摘されていない。またテレビ映画のメジャーヒーローの担い手たちにも、子供時代の憧れを抱いてプロの世界に入っていく例は多い。そして商業作品とはいえ、ヒーローたちの活躍を子供達が観ること自体に、ある種の道德教育の側面を認めることは可能であることから、運営に商業的意図が含まれるかどうかに関わらず公益に資するとみなすこともできよう。その意味では、担い手たちの自己実現の動機ありきでローカルヒーローを特徴づけるのは、社会福祉活動の中では意味のある分析だが、ローカルヒーローの分析としては不十分であろう。

2-2. 地域シンボルとしてのローカルヒーロー

水野博介氏はゆるキャラなどと合わせ、観光資源が乏しい地方都市やコミュニティが観光資源に代わって、あるいは地域活性化のシンボルとして、近年創出している6種類のシンボルを挙げ、その試みの一つとしてローカルヒーローを取り上げている(水野2012: 211-218)。水野氏は、その担い手が若い女性達のグループであるローカル・アイドルと対置させ、「比較的若い男性達を主体とするグループ」としてローカルヒーローを位置づけている点に特徴がある。そしてその遡源を日本のメディア文化の系譜と関わるものとしつつ、ローカルな場所で、その土地の民俗や伝統などに関連した「ショー」という形になっていることが特徴であり、新しさでもあるという見解を示している。論考では具体例として秋田県の「超人ネイガー」が取り上げられており、「“ローカル”なヒーローに徹したやり方を貫き、沈滞しがちな地方に活力を注ぐ活動」と評価する。ま

た「ローカル・アイドル」と共通の課題として、一過性のブームで終わることなく安定した地域ブランドとして存続していくことを挙げている。

こうした分析を踏まえた上で、都市のシンボルとしてのローカルヒーローは、ゆるキャラと同じく架空の存在に連なるもの、「例えば、民話やマンガ・アニメなどに描かれる人間あるいは妖怪に類したもの（水野 2012: 216）」とする。ただしゆるキャラがそうした伝承が無い地域でも都市側が主体的に生み出すオリジナルなものが大部分を占めるのに対し、ローカルヒーローは民話などに描かれる人間あるいは妖怪に類したものなどがあるとする。

水野氏はローカルヒーローと民俗や伝統との結びつきを重視しており、ゆるキャラのように主体的に創出されるものではないとする点に主張の特徴がある。だがここに検討の余地はないだろうか。地域の民俗や伝統の大切さをテーマとした例も確かにあるものの、ローカルヒーローの掲げるテーマは決してそれらに限られることはなく多様であり、この定義があてはまる活動は限られるといえよう。

2-3. ローカルヒーローの動向

2006年に刊行された『ローカルヒーロー大図鑑』は、初めて全国のローカルヒーローを網羅的に論じた書籍であり、ローカルヒーローとは何かを考える上で重要である。ファン向けの構成になっており、また各ローカルヒーローの項目に地域の紹介が付属するなど地域色を重視した構成になっている。

また特に注目されるのが、本書に掲載された「年表〈ローカルヒーローの歩み〉」である（ブルー・オレンジ・スタジアム 2006: 98-99）。1970年代から2005年までを4時期に分けてローカルヒーローの動向をそれぞれ記述し、内容や性質の変化を指摘している。90年代前半までの時期は「ローカルヒーロー現る」としてまとめ、コスプレの延長や自主製作映画ブームの中で誕生したオリジナルヒーローが登場し、ローカルヒーローという言葉こそ産まれたがまだ概念として無かったとされる。ついで90年代後半から2000年までは「ローカルヒーローの夜明け」としてまとめ、ローカルヒーローという言葉が初めてメディアに登場し、各地で同時多発的に誕生したこれらの活動がネットや週刊誌で紹介された時期とする。さらにテレビのバラエティ番組でヒーローもののパロディが製作され人気を博したこともブームを後押ししたと指摘する。2001年から2002年は「ローカルヒーロー急増」としてまとめ、全国各地で活動が増加し、またダンスチームや音楽隊、テレビやラジオからローカルヒーローが誕生した時期とする。そしてその背景として、メジャーヒーローのイケメン俳優が話題となり戦隊に注目が集まった時期と重なりと指摘する。2003年から2005年は「広がるローカルヒーロー」としてまとめ、ローカルヒーローという言葉が定着し、先駆的なローカルヒーローがマスコミに取り上げられ、地域活性化などを目的と

した地方自治体や商工会が手がけるヒーローが多数誕生した時期とする。テレビCMでパロディヒーローが放送された時期であることも指摘しており、ブームの背景と考えているようだ。ローカルヒーローはメジャーヒーローを含むマスコミの動向から影響を受けながら変質し発展してきた、という解釈を打ち出したのは本書の大きな特徴である。

続く第2弾として『超ローカルヒーロー大図鑑』が2013年に刊行された。こちらでもファン向けの構成になっているが、地域の紹介欄は姿を消しローカルヒーローに特化した内容になっている。巻末の「資料編」(ローカルヒーロー研究会2013:129-139)は、近年のローカルヒーローの動向と分析を加えた興味深い内容であり、新世代の台頭、単体ヒーローの増加、メディアへの進出の三点を指摘している。「新世代の台頭」とは、2006年以降の動向に対する見解である。ローカルヒーローが2000年前後から増加したこと、21世紀に入ると急増し2006年以降と比べ2倍に達したとする。そしてその内容としてこの時期に登場した「新世代ローカルヒーロー」の台頭を指摘するとともに、それ以前から活動してきたベテラン勢とともに「始動と更新を繰り返しながら」ローカルヒーローの活動が活発になっていると指摘する。そして前書の2006年時からの変化として、「単体のローカルヒーローの増加」を具体的な数値を示しつつ指摘し、その原因として単体ヒーローはコスチュームが基本的に1人で済むこと、個人レベルで活動が始めやすいことといった運営上・経済上の理由も指摘している。また70年代後半に登場した集団型のメジャーヒーローである「戦隊もの」を開始期から見ていた世代から、80年代前半の単体ヒーローを見ていた世代へと担い手が交代したことも関係すると指摘する。そして「メディアへの進出」として、ローカルヒーローがラジオ、テレビなどへ進出したことを最近の傾向として挙げており、各地のローカルテレビ局が1つのコンテンツとして注目していることを指摘する。これら3点に加え、エリアを超えたヒーロー同士の交流や情報交換が盛んになったこと、ヒーローの造形技術の向上、地方を飛び出した遠方への出張ショーの開催もまた指摘される(ローカルヒーロー研究会2013:3)。

この二冊はファン向けの娯楽書ではあるものの、実証的なデータに基づいた興味深い指摘と独自の解釈を行っており、説得力があり興味深い。ローカルヒーローがコスプレや自主製作映画の世界から誕生し、少しずつ拡大する中で徐々にメディアの注目を集め、社会に許容されて公共団体などが担い手として参加していく。また全国放送のテレビ番組が背景となることを繰り返し記述しており、さらに世代交代に関する見解は、メジャーヒーローとローカルヒーローの活動が有機的に結びついていること、メジャーヒーローへの憧れがローカルヒーローの活動の根本にあるという解釈を示すものである。

これらの図鑑が持つ価値は大変大きく、興味深い指摘が多々含まれているが、ローカルヒーローの展開に関する解釈には不十分な点もあると考える。集団型のメジャーヒーローである「戦隊」

は70年代以降現在に至るまで継続的に製作され続けているため、ローカルヒーローが単体主体へとシフトしたことの説明としては不十分である。また単体のローカルヒーローが近年増加しているのは事実として、それが80年代の単体型のメジャーヒーローの影響を受けてのことであるかどうかは、単に人数だけでなく様々な観点から比較してみる必要があるだろう。そしてローカルヒーローの目的には、ショーを見に来る子供達を喜ばせたいという担い手の自己実現以外のものも含まれる。担い手自身の理想や憧れの実現ばかりでなく、消費側の志向性も踏まえて展開すると考えるのが自然である。ローカルヒーローの内容を決定する要素は、メジャーヒーローに感化された担い手ばかりでなく様々にあると考えるべきであろう。

3. 分 析 ローカルヒーローの認識と実態

以上、先行研究の内容と課題を検討した。これら先行研究は共通して、ローカルヒーローの定義を論者側が設定し、その定義にあてはまる活動を拾い出して検証する演繹的な議論であった。そこで本稿は研究の第一歩として、「ローカルヒーロー」とは何か、その認識と実態を帰納的に探ることをテーマとする。この呼称でくくられる活動は現在までに数百も誕生しており、一様であろうはずもない。実際の活動に当たってみると、ローカルヒーローという名称でくくられる活動が実に多様であること、むしろまとまった定義付けが困難であることを思い知らされる。活動の目的、内容、構造は活動ごとに大きく異なっている。そもそもローカルヒーローという用語は、定義が曖昧なままで自称と他称が混在して使用されてきたため、かなりの混乱が生じている⁽²⁾。さらに当初の定義が判然としないまま現在に至っていることから、定義が変化したのかどうかを論理的に検証することも難しい。ただ先行研究に指摘がある通り、時系列順に追っていくと新しい要素を持った活動がローカルヒーローとして加わっていくことから、変化は確かに生じているといえよう。

こうした状況を踏まえた上で、本稿は以下のように論旨を展開する。先ずローカルヒーローと呼ばれる活動の認識、特に担い手側が抱いている認識をデータに基づいて探る。ただ実態としてローカルヒーローを名乗る活動は多様であると予想される。中には共通認識から逸脱したものも含まれるかもしれない。そこで共通認識を確認した上で、実際の活動状況との比較を試みる。

調査対象の選定にあたっては、先行研究で行われてきたように定義を演繹して活動を選び分析する方法は採用せず、努めて客観的な方法を採用することとする⁽³⁾。上述の通り、ローカルヒーローという用語は自称と他称の両方を含んでいる。本稿では自称する活動はローカルヒーローの一類型として捉え、分析対象に加える。また他称であっても、活動団体が否定せず受け入れていると考えられるものは分析対象に加えることにする。こうした立場から、本稿では2種類の情報源を

用いて調査対象を選択した。多くのローカルヒーローは、自分たちの活動目的や実績を公表するため、またステージショーなどの問い合わせを容易にするためにホームページやブログ、フェイスブック、ツイッターなどを開設している。本稿ではこれらインターネット上の情報を積極的に収集した。またその活動がローカルヒーローであるかどうかについて、自称している活動に加え、他称を認めていると判断される場合は検討対象に含めた。判断基準のひとつとして、先行研究の項で上述した『ローカルヒーロー大図鑑』および『超ローカルヒーロー大図鑑』を用いる。これらに掲載された活動は、他称ではあるもののローカルヒーローであることを自ら認めているとみなしうる。またローカルヒーローを冠するイベントにローカルヒーローとして参加した活動については、同じ理由から検討対象に含めた。

全国各地に展開したローカルヒーローの全体を探る上で、こうした方法は有効と判断した。ただし団体ごとに開示している情報に差があるため、集まるデータに制約もある。本稿では分析項目を絞り込み、活動開始年、活動母体、地域色の3つを設定した。現時点で、筆者がこれら3項目の情報を収集できたローカルヒーローの活動は204例である（表1）。本稿ではこのデータを用いて論を進める。

図1 本稿で扱うローカルヒーロー一覧

活動 開始 年	都道府県	名 称	体 ・ ボ ラン テ ィ ア 団 ・ 個 人 活 動	企 業	商 工 会	公 共 機 関	N P O	商 店 街	青 年 会 議 所	学 校 で の 活 動	そ の 他	地域色の度合			
												類 型 ①	類 型 ②	類 型 ③	類 型 ④
1983 年	大分県	故郷戦隊ヒタシマン	●									○			
1983 年	鹿児島県	爆煙仮面カゴシマン	●										○		
1990 年	沖縄県	黄金戦隊かぼっちゃマン	●									○			
1991 年	鳥取県	獣王武人ガイナマン	●									○			
1992 年	鳥取県	三地直装イワシマン	●									○			
1997 年	青森県	県立戦隊アオモレンジャー						●				○			
	福島県	ミルキースパーコ			●								○		
1998 年	熊本県	共感戦隊ナンブレンジャー		●								○			
1999 年	東京都	正義の閃光クルメイザー	●									○			
	鹿児島県	離島閃隊タネガシマン	●									○			
2000 年	東京都	超装甲ジオブレード	●												○
	東京都	オーエドマン						●				○			
	東京都	環境戦隊ステレンジャー	●											○	
	兵庫県	分別戦隊ゴミワケレンジャー								●				○	
2001 年	青森県	環境戦士カンキョマン						●						○	
	山形県	ゴミ減量マン				●								○	
	滋賀県	環境戦隊ゴミラレンジャー								●				○	

2002 年	北海道	雅楽戦隊ホワイトストーンズ		●								○		
	石川県	まんてん仮面			●							○		
	静岡県	爆音戦隊スンプレンジャー										○		
	大阪府	パンダ戦隊パンダレンジャー		●										○
	愛媛県	路面ライダー		●								○		
2003 年	岩手県	無限勇者カグライガー					●				○			
	宮城県	わが町ヒーローアラマチマン					●				○			
	福島県	MAN☆YO 戦隊タンクトップス		●								○		
	愛知県	ひまわり戦隊トヨタジャン						●			○			
	長野県	美化戦隊エコレンジャー		●									○	
	長野県	地域戦隊カッセイカマン		●							○			
	福井県	レインボー戦隊五湖レンジャー		●							○			
	福井県	リサイクル戦隊ワケルンジャー			●								○	
	三重県	観光戦隊イセシマン	●								○			
	京都府	消防戦隊ヒガデンジャー			●								○	
	大阪府	クリーン戦隊エコレンジャー							●				○	
	岡山県	花びら戦隊コスモスレンジャー		●							○			
	島根県	よいとこ戦隊ダイトレンジャー		●							○			
	鹿児島県	お魚戦隊カツオジャー						●			○			
	沖縄県	ヨナバルファイタースリー		●							○			
2004 年	北海道	安全戦隊シートベルダー		●									○	
	宮城県	シージェッター海斗		●								○		
	福島県	発掘戦隊まほレンジャー			●								○	
	群馬県	超速戦士 G-FIVE					●					○		
	埼玉県	埼玉戦隊ドテレンジャー	●								○			
	千葉県	沼南戦隊☆テガレンジャー		●							○			
	長崎県	協力戦隊グレイトレンジャー	●									○		
	愛知県	おおぐち元気戦隊ダッシュマン	●								○			
	愛知県	庁健康戦隊ニシバルカン	●								○			
	石川県	九谷戦隊五彩レンジャー		●							○			
	三重県	津に來て戦隊ツヨインジャー	●								○			
	和歌山県	みかん戦隊オレンジャー		●							○			
	香川県	未来環境防衛隊ドラゴンマン		●									○	
	長崎県	自然児戦隊☆おちか島ん NEO	●								○			
	宮崎県	カグライダー					●				○			
	大分県	消防戦隊キコレンジャー	●										○	
	大分県	パワーシティオーイタ					●				○			
	熊本県	商工宣隊ウトレンジャー		●							○			
2005 年	北海道	どさんこ戦隊ハルニレンジャー		●							○			
	北海道	サーモンファイター・ルイベ		●							○			
	青森県	エコレンジャー			●								○	
	秋田県	超神ネイガー		●							○			
	新潟県	小京都戦隊カモレンジャー						●			○			

	愛知県	ヘルパー戦士トモノイエックス					●											○		
	京都府	予防戦士ジュエキキマン					●											○		
	大阪府	アマノンガー			●												○			
	岡山県	黒本戦隊クロレンジャー	●														○			
	山口県	清流光神ハクジャオー						●									○			
	香川県	綾川大好きヒーローコーバイマン	●														○			
	長崎県	かわたな戦隊クジャクマンⅡ				●											○			
	沖縄県	琉神マブヤー			●												○			
	沖縄県	美ら結シンカ ムムヌチハンター	●														○			
2009 年	秋田県	ギャルダーハチ			●												○			
	山形県	南陽戦隊アルカディオオン	●														○			
	栃木県	精霊法士トチノキッド	●															○		
	東京都	自然超人オウメンジャー										●					○			
	東京都	転成合神ゲンキダーJ	●															○		
	埼玉県	航空戦士トコロザワン							●								○			
	埼玉県	みやしろ戦隊ハナレンジャー				●											○			
	神奈川県	キンタローマン													●		○			
	山梨県	甲州戦記サクライザー	●	●													○			
	静岡県	茶神 888			●													○		
	新潟県	超耕 21 ガッター			●													○		
	京都府	レジェンド オブ ホクト							●									○		
	兵庫県	改造実験体 OMIT													●					○
	兵庫県	軌道星隊シゴセンジャー					●												○	
	大阪府	地球戦士ゼロス			●														○	
		鳥取県	白兔跳神☆イナバスター	●														○		
		福岡県	堅坑戦隊クロダイヤー				●											○		
	2010 年	山形県	出羽戦士ガ・サーン			●												○		
		福島県	ジャンガラー											●				○		
茨城県		郷土戦士サンライザー K									●							○		
茨城県		舞神双嵐龍	●															○		
埼玉県		埼玉戦士さいたぁマン	●														○			
埼玉県		家計お助け戦隊！ FP レンジャー			●														○	
東京都		超鋼祈願ササツカイン			●													○		
東京都		仮面の守護者ゼロング			●			1											○	
愛知県		合併戦士キタナゴレンジャー	●															○		
愛知県		超天ダガヤー											●					○		
奈良県		超烏人ガイナ					●											○		
三重県		KIHOKU 戦隊アパバイン			●													○		
岡山県	鬼神戦士ジャケンジャー X	●																○		
鳥根県	神話舞隊カミアリージャー									●							○			
福岡県	ローカライザー	●																○		
宮崎県	天尊降臨ヒムカイザー			●														○		
2011 年	北海道	カムイエース	●														○			

2012 年	北海道	ジンギリバー						●			○			
	岩手県	鉄神ガンライザー					●				○			
	宮城県	破牙神ライザー龍				●					○			
	栃木県	創造戦士トチエーター	●								○			
	東京都	大学戦士トーダイン						●			○			
	埼玉県	彩光戦士サイセイパー	●								○			
	愛知県	カスガイガー	●								○			
	長野県	高校戦隊テックレンジャー						●			○			
	静岡県	爆音戦隊スンプレンジャー PEACE								●	○			
	静岡県	爆音戦隊スンプレンジャー ZZ								●	○			
	静岡県	からくり侍セッシャー		●							○			
	静岡県	遠州忍者 魁斗&鼈甲	●								○			
	岐阜県	滑走戦隊ホッケーレンジャー		●								○		
	石川県	食育戦士スギヨ仮面		●								○		
	広島県	安芸戦士メーブルカイザー	●								○			
	滋賀県	甲賀戦士忍ジャガー		●							○			
	京都府	福知戦隊ダイヤスリー			●						○			
	大阪府	浪速伝説トライオー		●							○			
	鳥取県	ネギマン								●	○			
	香川県	石匠庵神レムジア	●								○			
	鹿児島県	薩摩剣士隼人		●							○			
	山形県	YOZAN 戦士アズマンジャー		●							○			
	東北	東北合神ミライガー		●							○			
	宮城県	未知ノ国守ダッチャー		●								○		
	福島県	相双神旗ディネード&ミネート				●					○			
	東京都	イクメン戦士ネリマックス	●								○			
	神奈川県	帷子戦士デザイヤー								●	○			
	神奈川県	横浜見聞伝スター☆ジャン		●								○		
	福井県	超越前進ゴーイクザー	●								○			
	愛知県	獣神ハンダー FOX		●								○		
	愛知県	森羅特装シュラバスター	●									○		
	滋賀県	ロボットレーサー V		●								○		
	大阪府	アスカイザー		●							○			
	奈良県	バス線士ナコー	●										○	
	奈良県	YAMATO 超人ナライガー		●							○			
	兵庫県	仮面戦士ナイスマン	●									○		
	兵庫県	スクランブルヒーロー白夜	●											○
	広島県	ヒロシマックス		●							○			
	香川県	うどん騎士テウチオン	●								○			
	福岡県	博神バリスガー		●							○			
2013 年	北海道	アグリファイター・ノースドラゴン	●								○			
	福島県	丞神デナー				●					○			
	東京都	ワセダブライト						●			○			

	愛知県	黄金鯨伝説グランスピアー		●								○			
	愛知県	緑王戦士カテキング	●									○			
	京都府	醍醐五大伝道士ゴダイリキ								●			○		
	滋賀県	コアラ G		●								○			
	大阪府	大阪市消防局セイバーミライ				●							○		
	大阪府	ハチカツキ・ネーヤ		●								○			
	大阪府	クラワンガー		●								○			
	広島県	鳥神ミヤジマックス	●									○			
	山口県	海峡戦士タイガーフーク	●									○			
	福岡県	キタキュウマン		●								○			
	福岡県	吹王火剣フクオカリバー	●									○			
	熊本県	郷熊戦煌ジュグリッター	●									○			
	沖縄県	伝統神ウルマー			●							○			
2014 年	青森県	海鮮野郎ホッキーガイ						●				○			
	栃木県	邪影バスター 蘭（アララギ）	●										○		
	愛知県	陶神オリバー	●									○			
	愛知県	鉄鋼トウカイザー		●								○			
	兵庫県	ケミカル戦士シューフайター						●				○			
	兵庫県	薬物乱用防止戦隊 薬物 G メンダメ ナンジャー				●								○	
	愛媛県	マツヤマン	●									○			

3-1. ローカルヒーローの認識

インターネットと文献史料を通じ、ローカルヒーローの認識について言及したものを収集した（表 2）。なお自称としてローカルヒーローを名乗る場合、自身の活動の定義がその団体のローカルヒーロー認識を示していることになるが、本稿ではあくまで全体に通じる認識を探るという目的から、ローカルヒーロー全体について包括的に意見表明を行ったもののみを取り上げた。

これらは大きく、調査者からの認識と実際に活動している団体からの認識とに二分できる。また後者の中には、自分たちの活動は他のローカルヒーローの活動と異なるとする立場から、対置する意図のもとに認識を示した例も見られる。

このように様々な文脈からの認識が出されているが、幾つかの論点と一定の共通性を認めることは出来るだろう。まず全体に共通してみられるのが、地域で活動し、地域を活性化する、という活動内容と目的である。さらに踏み込んで、地域の PR を目的に取り入れた認識も見られる。

一方で活動の担い手については認識が分かれる。担い手は多様であることは概ね共通した認識であるようだが、ローカルヒーローとは地域の住人や団体によるボランティア活動である、あるいはそうした活動母体が主であるとする認識もみられる。また認識の変化がうかがえる事例もあり、『ローカルヒーロー大図鑑』では商業作品を「純粋なローカルヒーロー」の定義から外して

表2 ローカルヒーローの認識

活動、書籍の名称	定義に関する文章	URL、出典
『ローカルヒーロー大図鑑』	<p>●ローカルヒーローとは ゴレンジャーじゃない！ 仮面ライダーでもない！ 愛する地元のため、弱きを助け強気をくじく、地域限定のオリジナル・ヒーローたち。商工会の会員からお役所の職員まで、“中の人”は多種多様。多くは戦隊モノをお手本にしているが、ライダー風や、見たこともないオリジナルヒーローも。今、全国各地で次々と産声を上げている。</p> <p>アジアでは、お隣の中国にもヒーローが。1975年に香港で放送された、その名も「中国超人インフマン」。商業作品なので、純粋なローカルヒーローではないが、日本のヒーローものの影響を受けたロンリーヒーローである。</p>	<p>ブルー・オレンジ・スタジアム2006:カバ-</p> <p>ブルー・オレンジ・スタジアム2006:101</p>
『超ローカルヒーロー大図鑑』	ローカルヒーローとは、愛する「地元」のため、地域限定で活動するオリジナルヒーローのことである。活動母体は、地元の商工会から、学校、保育所、企業、さらには特撮ヒーローを愛する個人まで、多種多様だ。	ローカルヒーロー研究会2013:13
『環境防衛隊ドラゴンマン』 2004年結成	<p>●ご当地キャラクターの解釈 なお「ご当地ヒーロー」を御所望の方に申し上げます。 地元の特産物や名産品、名所などをテーマに取入れ、地元の方々が地元の地域活性化のために活躍する「ご当地ヒーロー」のカテゴリーに属するキャラクターに関しましては、ドラゴンマンよりもはるかに「ご当地ヒーロー」たるキャラクターがたくさんございます。是非そちらの方をお調べください。 ドラゴンマンの展開につきましては、地域密着型の郷土PRを行うことを主な目的とする「ご当地ヒーロー」というカテゴリーとは異なるもの考えられる場合があります。</p> <p>これ（※筆者註 香川県外で大きな反響があること）はドラゴンマンが地域密着型の郷土のPRを行う「ご当地ヒーロー」ではなく、環境やエネルギー社会問題などをテーマにした意識啓発ショーを行う「ローカル戦隊」であるからかもしれません。</p>	<p>http://www.reimu.co.jp/dragonman/showjishi.html</p> <p>http://www.reimu.co.jp/dragonman/showjishi.html</p>
『朝倉戦隊サンレンジャー』 2007年結成	ローカルヒーローの役割 イベントを盛り上げるために市民自らが【ボランティア】でオリジナルヒーローを作ってアクションショーを行い、地域のために活動します。それがローカルヒーローです。自給自足のヒーローと言えるでしょう。	http://m-pe.tv/u/page.php?uid=sanranger&id=3
『美ら結シンカムムヌチハンター』 2008年結成	等身大ヒーローの必要性～人は誰でもヒーローになれる～ 全国あちこちで展開されているローカルヒーロー。彼らは、「身近にいる存在」つまり「我々自身」を体現する存在ともいえるでしょう。彼らは地域のシンボルとして、身近にいる私たちの総体として存在するのです。	http://www.momoporo.org/mumunuchiproltop.html
『時空戦士イバライガー』 2007年結成	<p>イントロダクション 平和を愛する思いが生んだIBARAKIのヒーロー。本当に地域を支えるには、ご当地ヒーローの常識を超えた本物が必要だった――。</p> <p>「時空戦士イバライガー」は自主活動です。 「時空戦士イバライガー」は、茨城県のご当地ヒーローとして紹介されることが多いですが、正確にはヒーロー好きの仲間たちによる自主活動であり、県、市町村等の公式キャラクターではありません。 各地のご当地ヒーローは、その地域のまちおこし団体などが主催運営していることが多いですが、イバライガーには、そうした母体がありません。ヒーローが好きだから、やりたいからやっている完全な自主活動で、結果的に地域のヒーローとして認めていただいているわけです。</p>	<p>http://www.ibaliger.com/kikaku/index.html</p> <p>http://ibaliger.com/kikaku/</p>
『博神パリスガー』 2012年結成	<p>●ご当地ヒーローってなんね!? 現在流行のご当地マスコット“ゆるきゃら”やご当地ヒーロー（ローカルヒーロー）をご存知ですか？ 日本全国に様々なキャラクターたちが誕生しその存在は各地でそれぞれの活動を通じて地域を大いに盛り上げています。 全国各地でご当地ヒーローは活躍しており、子どもたちのあこがれの“ヒーロー”たちは地域密着の活動を通して夢を与えつつけています。</p>	http://herofukuoka.jimdo.com/福岡県ご当地ヒーロー/
『YOZAN 戦士アズマンジャー』 2012年結成	ローカルヒーローのミッションは、「地域の魅力を再発見&認識し、地元と全国にその魅力を届けること」	http://ameblo.jp/localhero-produce/
『鳥神ミヤジマックス』 2013年結成	ローカルヒーローは、地元、ご当地の身近なキャラクターとして昨今各県下において話題であり、今や、その名は市民権を得ていると言っても過言ではなく、親子そろって多くの人々に愛されているのが実態でございます。	http://miyajimax.com/staff.html

いるが、続巻である『超ローカルヒーロー大図鑑』では企業を活動母体に含めた記述となっている。実際に企業がローカルヒーローを名乗って行う商業活動は増加しつつあり、そうした活動からもローカルヒーローに対する認識が示されている⁽⁴⁾。これはローカルヒーロー全般にではなく自社の活動に対する認識だが、ローカルヒーローに関する認識が共有されていることがうかがえる。

3-2. 活動内容と地域色

以上のようにローカルヒーローに関する大まかな認識は共有されていると考えられる。ところがローカルヒーローの活動は、自称にせよ他称にせよ必ずしもこの認識と合致しない。次に筆者が収集したデータに基づいて実際のローカルヒーローの活動について見てみよう。上記の認識と関わるポイントとして、活動内容と目的、そして活動母体の性格に注目する。またローカルヒーローの地域色について取り上げる。そして地域色の度合いやその他の要素も含めて大きく4つに分け、年代別に集計して分析を試みる。4分類の内容、基準は以下の通りである。

類型①【食料品や名産物など、地域を直接連想させる要素を名称などの設定に盛り込んだもの】

ローカルヒーローの中には、名称や武器、設定に特定の地域名やその地域の名産物などを直接連想させる要素を取り入れた例が見られる。上述した地域PRという目的に合致した類型といえよう。ただ正義、勇気、平和といったヒーローの普遍的要素とは直接関連しない部分であるため、ヒーローにコミカルな印象を持たせる結果となりやすく、中には駄洒落を用いたもの、メジャーヒーローのパロディになっているものも見られる。ただし名称などにこうした要素が含まれていても、活動の内容が地域PRに重きを置いていない例もあり、本稿ではそうした例は下記の他の類型に含めた。

類型②【地域の要素を内包するが表に出さず、背景に留めたもの】

ヒーローの出自や活動の舞台などに特定の地域を設定するものの、名称などには地域や名産物を直接連想させる要素を盛り込まない例も見られる。上記の類型①に比べ、地域のPR効果は弱くなると予想される。ただしパロディとなる要素が希薄であるため、メジャーヒーローと通じる性格を持ちやすくなる。これも自称、他称ともにあるが、「本格派」とされるローカルヒーローにはこの類型にあてはまるケースが見られる。

類型③【特定のテーマを持つものの地域色は希薄なもの】

地域の団体が防犯、清掃など特定のテーマを持つ活動を行う際に、子供の関心を誘うなどといっ

た目的からヒーローを伴う例があり、こうした活動もローカルヒーローに含まれることがある。活動母体の性格から実際の活動地域は限られているが、地域のPRを目的としないため名称や行動などから特定の地域を直接連想することは出来ない。

類型④【活動領域が限定されているものの、地域色が希薄なもの】

上述のような特定のテーマを設定せず、地域色も希薄な活動例がローカルヒーローを自称する、他称される例もある。大学などで製作される自主製作ヒーローにはしばしばこうした活動が見られる。担い手の自己実現をストレートに表現した活動ともいえるだろう。他のローカルヒーローと差別化する、あるいはより適切な名称を選択するといった意図から、インディーズヒーロー、オリジナルヒーローといった異なる名称を併用する場合もある。

以上の項目を設定した上で、年代ごとに集計した結果をグラフとして作成した(図2-1)。90年代以前は事例数が少ないため有意とは言えないが、全体の傾向として類型①が主体となり、毎年登場するローカルヒーローの半数近くに上ることがうかがえる。次いで多いのが類型②であり、これは2000年代から増加し始め、2010年代には類型①を凌駕する年すらあるほど右肩上がりの

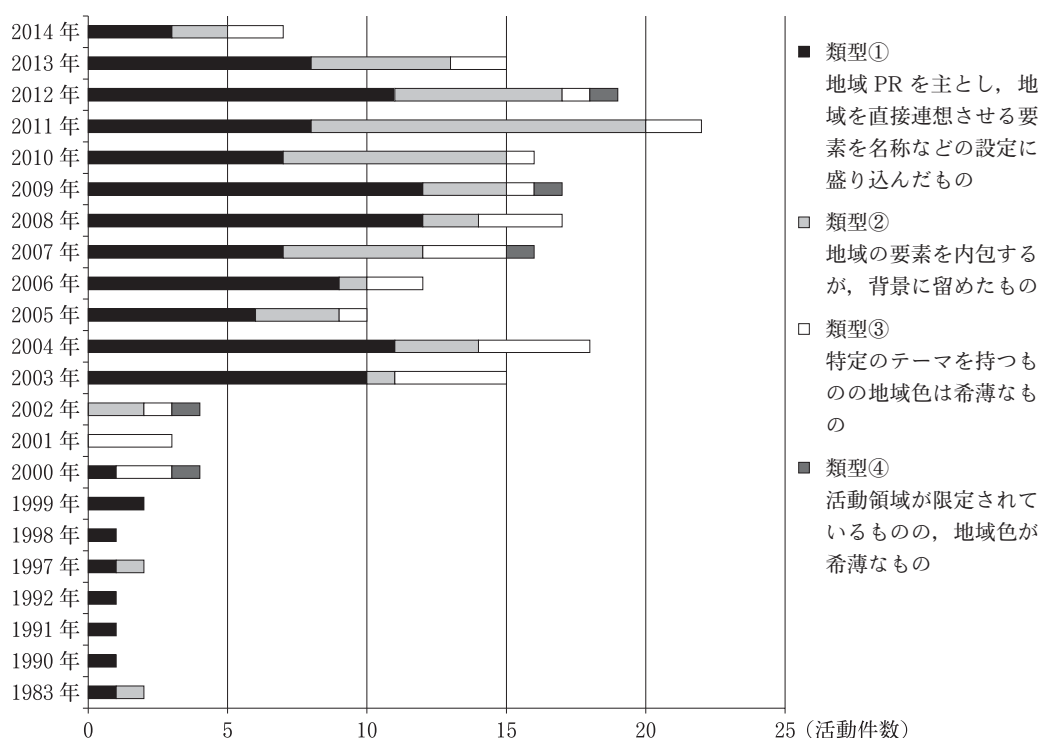


図2-1 結成年別に見た活動の内容と地域性

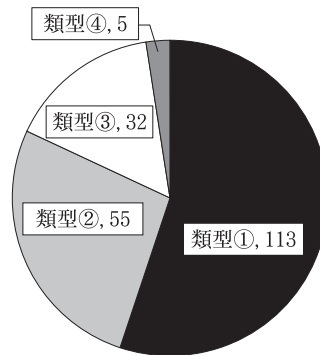


図 2-2 活動の内容と地域性（集計）

※グラフ内の数字は活動の総数

傾向にある。類型③、④は今のところ主体となったことはないが、毎年コンスタントに登場していることがうかがえる。

また全体を集計し、それぞれのタイプの占める割合を円グラフにまとめた（図 2-2）。ローカルヒーローの活動はメジャーヒーローと異なり、数年以上に渡る例が多いことから、この集計グラフが現時点でのローカルヒーローの性質の多様性とそれぞれの比率を反映したものと考えられる^⑤。類型①は全体の半数を占める一方で、地域色の希薄な類型②、類型③が一定の割合を形成していることがうかがえる。

3-3. 活動母体の営利性

上述のローカルヒーローを巡る認識に置いて、活動母体の営利性に触れたものがあつた。ローカルヒーローとはボランティア活動を原則とするという考え方である。では実態としてどのような状況にあるのか、活動母体の営利性に注目して集計を試みた。ローカルヒーローの活動母体の性格は、ボランティア団体、NPO、公共機関、青年会議所、学校での活動（授業活動、部活動など）、企業、商工会、商店街などに分類出来る。まずそれぞれを非営利活動と営利活動に分類し、年ごとに集計した（図 3-1）。ボランティア活動を中心とする非営利活動は、ローカルヒーローの活動の中で最も多いものの、実際には半数程度に留まっていることがうかがえる。全体を集計した比率（図 3-2）においても、半数をやや上回る程度である。上述した認識とはいささか異なる状況が浮き彫りになったといえよう。

図 3-1, 2 は運営団体の営利性のみに注目したものだったが、では具体的にどのような性格の団体がローカルヒーローの活動を担っているのかを探るため、運営団体そのものの性格に基づいて集計しグラフ化した（図 3-3, 2-4）。なお総計が 20 例を下回るものはまとめて「その他」として表記した。このグラフを見ると、営利を目的としない市民ボランティアや個人活動として行

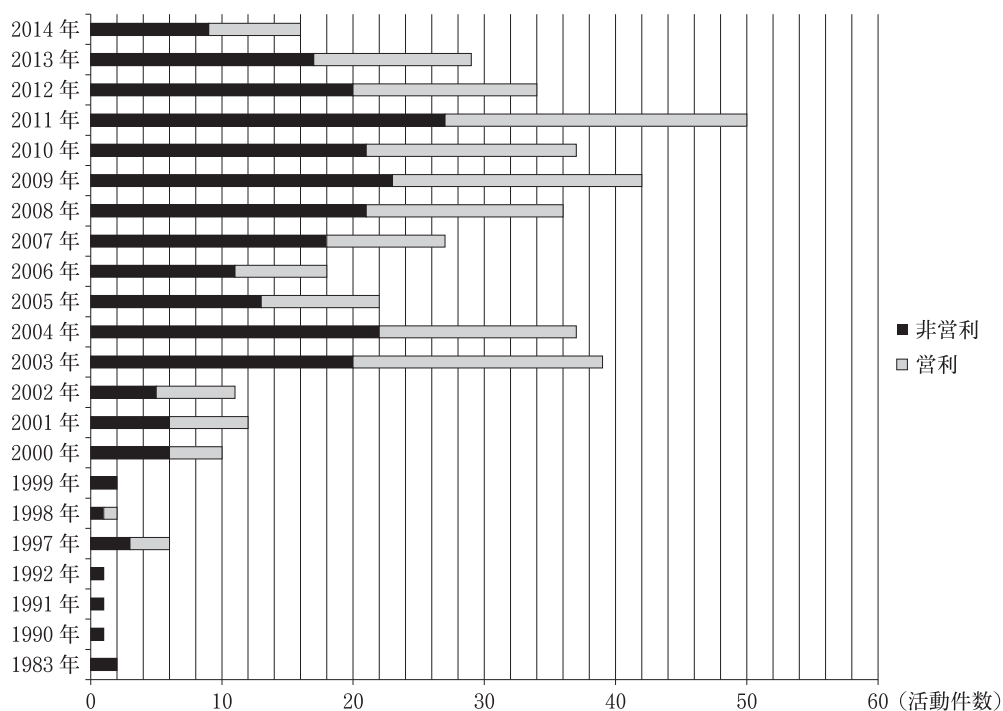


図 3-1 活動母体の営利性

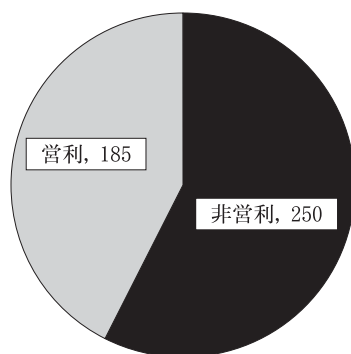


図 3-2 活動母体の営利性 (集計)

※グラフ内の数字は活動の総数

われている活動は、全体の中で最も高い比率を示すものの半数には満たないことがうかがえる。一方で企業が運営するローカルヒーローの活動はボランティア活動に匹敵する規模で行われており、また徐々にその比率を増していることがうかがえる。これら二つが全体の大半を占めているが、商工会による活動がコンスタントに行われ続けている点もまた見逃せない。

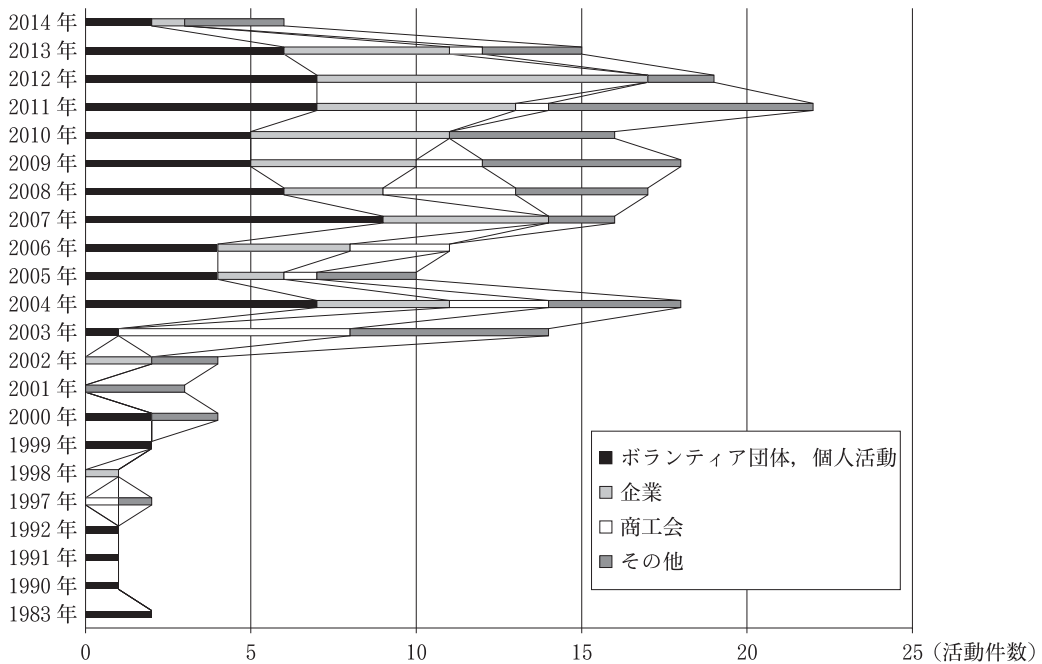


図 3-3 結成年別に見た活動母体の性格

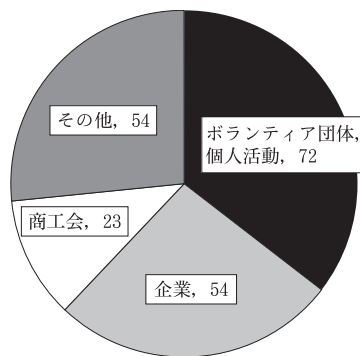


図 3-4 活動母体の性格 (集計)

※グラフ内の数字は活動の総数

4. 考 察

以上の検討結果に基づき、ローカルヒーロー全般に係る特徴、特に認識と活動目的及び活動母体に関し考察を試みる。

まずローカルヒーロー全般の認識について、これまでに提唱された認識を収集しその共通性を探った結果、活動内容については大きな差はなかったものの、活動の母体については意見が分か

れる結果となった。また一部には認識が変化している様子も確認された。ローカルヒーローとはボランティアによる地域PR活動であるという認識は、維持されながらも変化していると考えられる。

では実際にはローカルヒーローはどういった変化を遂げているのであろうか。活動内容に注目すると、名称などに地域の特色を強く打ち出したもの（類型①）が現在も中心となっていることがうかがえる。しかし地域色を前面に押し出さないもの（類型②）、異なるテーマを掲げたもの（類型③④）がその比率を伸ばしているという状況を見て取ることが出来る。大まかな傾向としては、ローカルヒーローは地域色を薄めつつあり、地域を積極的に取り込むのではなく背景や活動領域として設定するにとどめる方向に変化していることがうかがえる。「ローカルヒーローの地域離れ」ともいえる、字義からすると矛盾した現象が進行していると言えるだろう。

こうした活動内容の変化だけでなく、活動母体の変化も生じている。ボランティア活動によって担われるとの認識は決して間違いでは無く、実際に最大比率を占めているのだが、実際には企業による運営も増加しており、商工会と合わせるとむしろボランティア活動を凌駕している。ローカルヒーローの担い手は拡大し多様化していることが出来るだろう。ただし、企業や商工会による活動が増加しているといっても、ローカルヒーローの活動がメジャーヒーローの様に営利中心に変化したとは必ずしも言えない。本稿では詳細に触れていないが、営利を追求する企業であっても、例えば幼稚園での活動は割安価格で行うなど、ローカルヒーローに社会福祉やボランティアの性格を持たせる工夫が行われる例がある。一方で非営利団体も、実際には移動費や着ぐるみの修理費として一定額を請求する例が一般的である。また商工会の活動は営利を目的とするものの、公共性が高いことからボランティアと企業のどちらに近いとも言えない。社会福祉の要素を共通して備えたまま、ローカルヒーローの活動が多様な性格の団体によって担われるようになったと見るのが適切と考えられる。

さてこうした活動内容の変化と、活動母体の変化は連動していると考えるべきであろうか。すなわちローカルヒーローが多様な性格の団体、特に増加傾向にある企業によって地域色を薄めているという連動は成立するだろうか。筆者はここにまだ別の要因が存在すると考える。図1に見るように、増加しつつある企業によるローカルヒーローは必ずしも類型②や類型③に合致しないことから、両者に直接の関係が無いのは明白である。企業の参入には活動ごとにそれぞれ異なる背景が潜んでいると予想され、個別事例を精査する必要があるが、ローカルヒーローの活動が活発化し注目を集めたことで商機を見出したこと、またビジネスモデルが示されたこと（海老名2009）が追い風になった可能性を本稿では提示するに留める。では活動内容から地域色が希薄になった原因は何であろうか。まだ予察の段階を出ないが、この変化はより大きな変化を反映している可能性、すなわちパロディから本格派へ、模倣からオリジナルへという変化の反映と説明す

ることが出来るかもしれない。こうした変化と関連する可能性がある要素として、活動に必要なヒーローや怪人の着ぐるみの変化についてここで簡単に触れておきたい。90年代以前の活動では、既製品のバイクのヘルメットやパーティ用のコスチュームを若干の手直しのみで使用した例が少なくなかった。しかし近年はメジャーヒーローと同じ素材、製法による完成度の高いものが増加している。長期に渡り活動を継続しているローカルヒーローの中には、着ぐるみをリニューアルした例も報告されている（例えば山口 2013: 35-36, 82）。またローカルヒーローの着ぐるみを製作する企業も登場しており、中にはローカルヒーローの運営団体が他の団体に向けて着ぐるみを製作販売する例もある（超速戦士 G-Five 造形クラブ, 正義の味方 2014 他）。活動の活発化に伴ってこうしたバックアップ体制が充実し、ローカルヒーローのメジャーヒーロー化がさらに進行する背景になっていると考えられるが、一方でローカルヒーローから地域性という大きなテーマが失われようとしていることも意味している。今後ローカルヒーローがどのように変質しどのような役割を担っていくのか、注目されるところである。

5. 小 結

ローカルヒーローをテーマに、その認識と活動の実態について情報を収集、整理して大枠の議論を展開した。設定可能な課題はこれだけでなく、まだまだ多い。他のボランティア活動、観光業、メディアなどとの関係は重要なテーマである。またゆるキャラや萌え興しといった他の地域キャラクターコンテンツとの関係性も興味深い。メジャーヒーローとの関係も興味深いテーマである。さらに正義、平和といったテーマと共に、悪と戦うとはいえ暴力をふるうという「正義の鉄拳」のロジックについても、地域 PR や公共団体のキャラクターとして、子供に見せるコンテンツとして突き詰めて考えておかなければならないテーマであろう。

また活動の規模もローカルヒーローごとによりかなりの差がある。メディアや観光業と連携して地域の枠を超えた広がりを目指す活動もあれば、地域内に留まり続ける活動もあり、中には残念ながら活動を休止してしまったものもある。全国各地のローカルヒーローを集めたイベントが年に何度も開催され、活動間の連携を高める一方で、活動同士が地域内で摩擦を起こす例もあるという。こうしたテーマを追究するには、網羅的な書籍やネット情報に頼るだけでは不十分であり、実地調査を根気よく続けていく必要があるだろう。

〈註〉

- (1) ただしここで述べた『時空戦士イバライガー』の運営団体である茨城元気計画は、イバライガーをローカルヒーローの性格も持つヒーローと定義している。
- (2) ここで言う自称とは、その活動が自ら「〇〇県〇〇市のローカルヒーロー」などと称する例を指す。

自称する活動も様々で、市町村や商店街など活動域の公的な承認を得たものもあれば非公認の活動も存在する。一方で他称とは、活動母体はローカルヒーローを自称していないものの、ネット情報やマスメディアで取り上げられる際にローカルヒーローとして紹介される例や、自称しないままローカルヒーローのイベントに参加する例などを指す。なおローカルヒーローという用語が登場したのは1984年とされ、また地域のヒーローとしては1973年に例があるとされる（ブルー・オレンジ・スタジアム 2006: 101）。ただ前者の「爆煙仮面カゴシマン」については、当時学生であった担い手自身は「自主製作ヒーロー」と呼んでいたらしく、現在のローカルヒーローと同一視してよいかについては検討の余地がある（岩崎 2005）。またしばしば混同される用語にゆるキャラがあるが、こちらは提唱者も当初の定義も示されており、かつ変化して現在に至っていることが知られる（犬山・杉本 2012 他）。この点でも両者は大きく異なる。

- (3) ただしイラストのみのものや、人間以外の活動（ロボットなど）は、『大図鑑』などに掲載されているものであっても要素が異なり過ぎてしていると判断し、検討対象から除いた。
- (4) 秋田県を拠点に活動し全国的な知名度を持つ『超人ネイガー』は、ローカルヒーローを自称している。活動は「株式会社正義の味方」によって運営され、また活動の中心となる海老名保氏によって成立過程と精神が書籍となっている。海老名氏によればネイガーはボランティア精神と企業としての営利追及の両方の目的を持つ活動（海老名 2009: 170）であり、「子どもの夢と向かい合うことを職業にした」（海老名 2009: 174）としている。また長野県下條村の商工会を活動母体とする『地域戦隊カッセイカマン』は、活動の目的として「地域の子どもたちをはじめ、すべての住民に夢と勇気、希望を与え、地域の人々の気持ちと景気を活性化すること」とする（山口 2013: 83）。また無報酬の活動であり、グッズなど販売で衣装の修繕などの費用を確保しながら、自主財源で活動できる団体を目指す（山口 2013: 84）という運営体制に関する言及もある。何れも利潤追求だけでなく、ボランティア活動、公共性に配慮した活動を掲げている点は注目される。
- (5) 中には休止あるいは終了してしまった活動もあるため、過去的事例数を単純に集計したこの図は、全体傾向を抑えるという目的の上では有効と判断したものの、2014年における正確な状況を示したものではない。ただ明確な終了宣言をして活動を終えるケースは少なく、また規模を縮小したため見えづらくなっているだけで継続中の活動も存在することから、正確な状況を把握するのは難しい。

参考・引用文献

- 犬山明彦・杉元政光 2012年『ゆるキャラ論 ゆるくない「ゆるキャラ」の実態』ボイジャー
- 岩崎裕行 2005年「これが伝説のローカルヒーロー、カゴシマンだ!」『「オモチャキッド」制作スタッフ BLOG』<http://omochakid.blog.fc2.com/blog-entry-42.html>（閲覧日 2014年 11月 26日）
- 岩崎雅美 2008年「コミュニティ・ソーシャルワーカーの養成課程における「実践力」のとらえ方について——市場原理に与しないローカル・ヒーローに関する考察から——」上智社会福祉専門学校『上智社会福祉専門学校紀要』3: 63-70
- うるの拓也 2013年『時空戦士イバライガー Vol. 01』うるのクリエイティブ事務所
- NPO いわて・郷プロジェクト 2011年「マブリットキバからみんなへ」『マブリットキバ公式サイト』<http://maburittokiba.web.fc2.com/msg2.html>（閲覧日 2014年 11月 26日）
- 海老名保 2009年『奇跡のご当地ヒーロー「超神ネイガー」を作った男——「無名の男」はいかにして「地域ブランド」を生み出したのか——』WAVE 出版
- 株式会社正義の味方 2014年「変身部隊 X」『東北合神ミライガー』<http://miraigar.jp/heishin-x/index.html>（閲覧日 2014年 11月 26日）
- 超速戦士 G-Five 2014年「造形クラブ」<http://homepage3.nifty.com/SP/page007.html>（閲覧日 2014年 11月 26日）

南山大学総合政策学部高橋研究室 2005 年『豊田市街地活性化プロジェクト』<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Lounge/2160/index.html> (閲覧日 2014 年 11 月 26 日)

ブルー・オレンジ・スタジアム 2006 年『ローカルヒーロー大図鑑』水曜社

山口真一 2013 年『翔べ！カッセイカマン ― ローカルヒーローの聖地信州・下條村の逆風への挑戦』
ほおずき書籍

ローカルヒーロー研究会 2013 年『超ローカルヒーロー大図鑑』水曜社

Recognition and Realities of “Local Hero” Activities

Ryota Ishii

Abstract

The activities called “Local Hero” are performed at almost of all regions in Japan. I study the changes of these activities in the governing body of staffs and the contents of them. Many “Local Hero” activities are carried out at volunteers, and jobs of them are promotion of locality. But recently they are changed. They are often lost the locality. And recently many companies and government offices are carrying these activities. “Local Hero” activities are stopping the imitation of “Major Hero” of TV programs; they begin to put the originality.

Keywords: Local Hero, Character contents, Locality, Volunteer, Profit making